

# まちに佇むつじいの場

私たちの住む町・仙台市の中にある土樋地区の周辺には、今年度から東北学院大学五橋キャンパスが開設され、多くの人で賑わっています。そして、キャンパス近くの仙台市営地下鉄南北線五橋駅は利用者が急増しましたが、今回の計画地である、土樋地区にある愛宕橋駅では利用者が減少傾向にあります。このため、愛宕橋駅の周辺、つまり土樋地区の賑わいが減少しているのではないかと思います。そこで、私たちは土樋地区の賑わいをもっと増やしたいと思い、地域と人々の関わりについて考えました。土樋地区には、昔ながらの人々のつながりはあるものの、他の場所から来る人の賑わいや、集う場所はありませんでした。かつてあったつながりや、新しい賑わいを作り、より深めたいと思い、地域社会の最小単位である「家族」を地域全体にまで広げようと考え、家族が生活をしながら、その場所で働くことによって、店に集まる人の流れや賑わいを得て、人々の流れを引き寄せることにより、地域の活性化にも繋がるのではないかと思います。よって、ひと家族の店舗付き住宅を計画しようと考えました。また、店舗に付随する大きなオープンスペースなどで、仙台市に古くから伝わるすずめ踊りや、近くの寺や商工会議所などと連携して、地域的な祭りなどを企画し、世代を超えて交流が深められるようなコミュニケーションスペースを作ることができるのではないかと考えました。

## 土樋の現状

計画地の近くには、仙台市営地下鉄の愛宕橋駅があり、東北学院大学五橋キャンパスのある五橋駅の次の停車駅になっています。愛宕橋駅の利用者は仙台駅からほど近いにもかかわらず、利用者は地下鉄南北線の中で一番低く、2番目に利用者が少ない駅に比べて、利用者の差は約1.7倍にもなっています。また、五橋駅との利用者の差は、約2.3倍もあります。他にも周辺には荒町小学校や五橋中学校などがあり、駅を利用しない若者の割合は多くなっています。

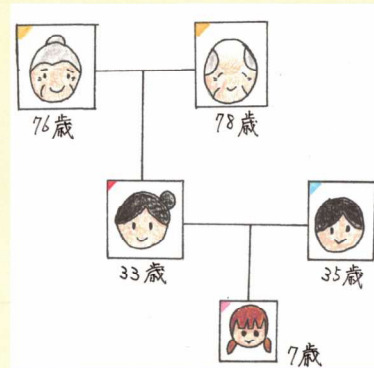


土樋地区には、南側に広瀬川が流れ、いくつかのお寺があり、仙台市内に位置しながら、多くの緑が残っています。この土樋地区には、すぐ近くに長町・利府断層や大年寺山断層が通っており、今回の計画地はその2つの活断層の直下を避けて計画し、災害時には避難所として使用できるようにしました。



## 建物へのつじい

ここでは、1階では和食、2階では洋食のレストランを住人である老・若夫婦が経営していて、料理をふるまいます。集いの間では、机を囲んで談笑会などといった地域の方々が気軽に集まって利用できるスペースとして使用します。また、敷地内ではバザーや地域のお祭りや連携して屋台の出店などの地域を盛り上げるイベントを行います。店の中では、自然を眺めながらゆっくりとした時間を過ごしなが、料理を食べることができます。住みながら働くことによって、お店に来てくれるお客さんや近所の方々とコミュニケーションや交流の場が増え、地域の活性化につながる仕組みを作ることができます。



## 〈家族構成〉

- 老夫婦  
1階で和風レストランを営む
- 夫婦と子ども  
2階で洋風レストランを営む



# Blessing

～自然の恵みは恵～



## 環境・災害への配慮

建物は、建設してから解体するまでの間、多くのエネルギーを消費して成り立っています。なので、使い続けている間に少しでも環境への負担を減らしたいと思い、私たちは現在、日本で行われている「カーボンニュートラル」への取り組みを建物にも取り入れられるのではないかと考えました。カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出を全体としてゼロとするというものであり、建物を使うのに必要なエネルギーを削減する「省エネ」と、必要なエネルギーを創る「創エネ」を組み合わせることで、建物全体のエネルギー消費を実質0にできるのではないかと考えました。

- 災害への配慮：災害時に避難が必要となったときは、オープンスペースを避難所として開設する。  
停電時は蓄電池があるため、災害時の非常用電源として活用することができ、電力をまかなえる。
- 省エネへの取り組み：採光や通風が得られる開口部を多く設けることで、昼間の照明の削減や、換気、夏場の冷涼効果を高める。
- 創エネへの取り組み：建物をオール電化にし、屋根には太陽光パネルを設け、必要なエネルギーをつくる。蓄電池を設置し、災害の時に役立てる。

